

最終集計

# 鉄道高架事業に、 こんな夢、こんな希望。

市街地の南北の行き来が  
スムーズになり、  
交通渋滞が解消される。

公園や広場を  
子供たちの安全な  
遊び場として利用したい。

期待している人

37.6%

期待している人

34.5%

## みんなが考えた 『未来の沼津』

これからの沼津のまちづくりに関する  
市民アンケートの最終集計を  
ご報告いたします。

鉄道跡地には  
ショッピングセンターを

期待している人

38.2%

沼津駅の周辺が生まれ変わります。

鉄道高架事業を始めとする沼津駅周辺総合整備事業は、沼津が将来にわたり静岡県東部の拠点都市として発展し、住み続けたいまちと思っていただけるようなまちづくりを進めていくためにも全力を挙げて取り組んでいかななくてはならない事業です。今年度はいよいよ事業主体となる県が、鉄道高架事業の事業認可取得を予定しており、具体的なまちづくりの着手にあたって、市ではより多くの市民の皆さんのご意見をお聞きすることが必要と考えました。今回の市民アンケートでは、皆さんに「未来の沼津」を思い描いていただき、要望や期待をお聞きすることができました。ご協力ありがとうございました。

Q1

鉄道高架事業を始めとする沼津駅周辺総合整備事業の効果について、期待していることは？

交通渋滞が解消される。安心・安全のまちになる。

鉄道高架事業による効果のうち、「交通渋滞解消」(37.6%)と「駅南北の往来の自由」(24.1%)の上位2項目については、性別・年代を問わず知っている割合が高く、市民の皆さんの期待も高いことがわかります。

また、「経済が活性化し、雇用が増え、まちが豊かになる」(17.1%)には、30代男性から特に高い期待が寄せられています。



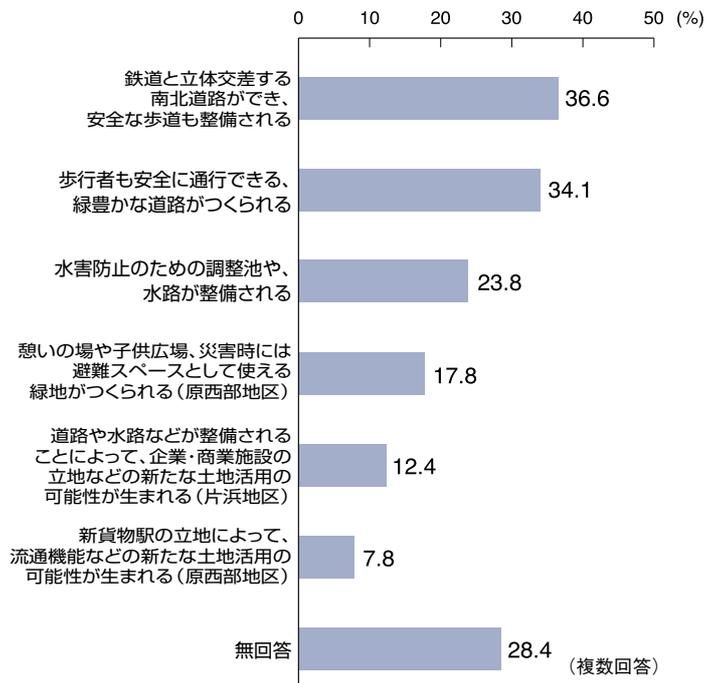
Q2

新貨物駅(原西部地区)や新車両基地(片浜地区)周辺のまちづくりについて、期待していることは？

「緑地の整備・南北道路と歩道の整備」に期待。

新貨物駅、新車両基地周辺のまちづくりで、最も期待されているのは「南北道路・歩道の整備」(36.6%)となっています。

新貨物駅、新車両基地周辺の原地区・片浜地区の回答をみると、最も期待するものとしてあげられたのが、原地区では「憩いの場や災害時に避難場所として使える緑地の整備」、片浜地区では「南北道路と歩道の整備」でした。2番目に期待したいものとしては、原地区では「南北道路と歩道の整備」、片浜地区で「緑豊かな道路」となり、地区ごとの特色が明らかになりました。



■調査概要

1. 調査区域：沼津市全域
2. 調査対象：15歳以上の市民
3. 調査方法：留め置き調査
4. 調査期間：平成18年3月1日～23日

■回収結果

1. 配布数：128,768
2. 回収数：58,637
3. 回収率：45.54%

※いただいたアンケートは、今後の具体的な施設づくりなど、新しいまちづくりのための基礎資料とさせていただきます。

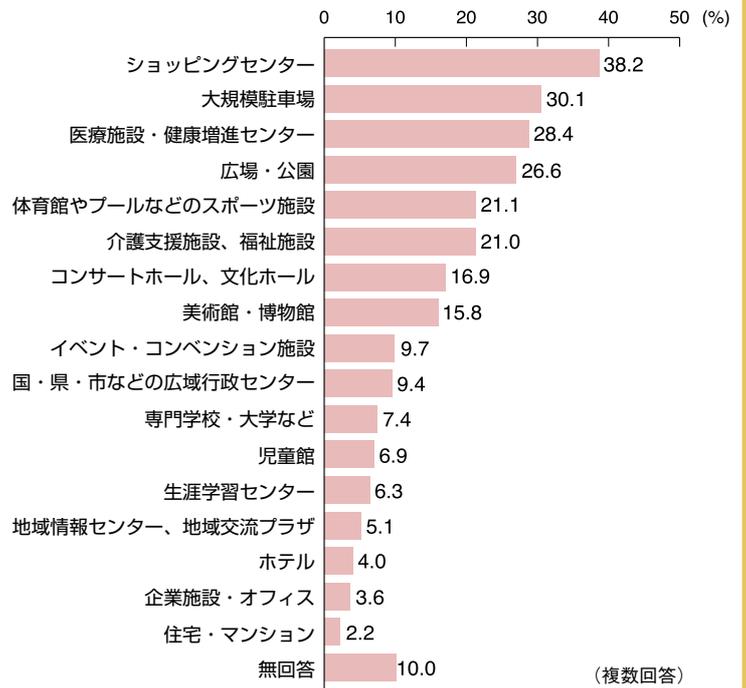


Q3

鉄道高架事業によって  
沼津駅周辺に生まれる鉄道跡地には、  
どのような施設があったらいいと思いますか？

鉄道跡地にはショッピングセンターを

鉄道施設のスリム化によって活用可能な土地（鉄道跡地）が約14ヘクタール（道路・公園用地含む）生まれます。ここにあったらいい施設として最も望む声が多かったのは「ショッピングセンター」（38.2%）、次いで「大規模駐車場」（30.1%）、「医療施設・健康増進センター」（28.4%）となっています。ショッピングセンターについては、若い世代ほど望む声が多く、特に10代、20代の女性では65.9%の人が期待を寄せています。「大規模駐車場」については、中心市街地以外からの要望が多くなっています。

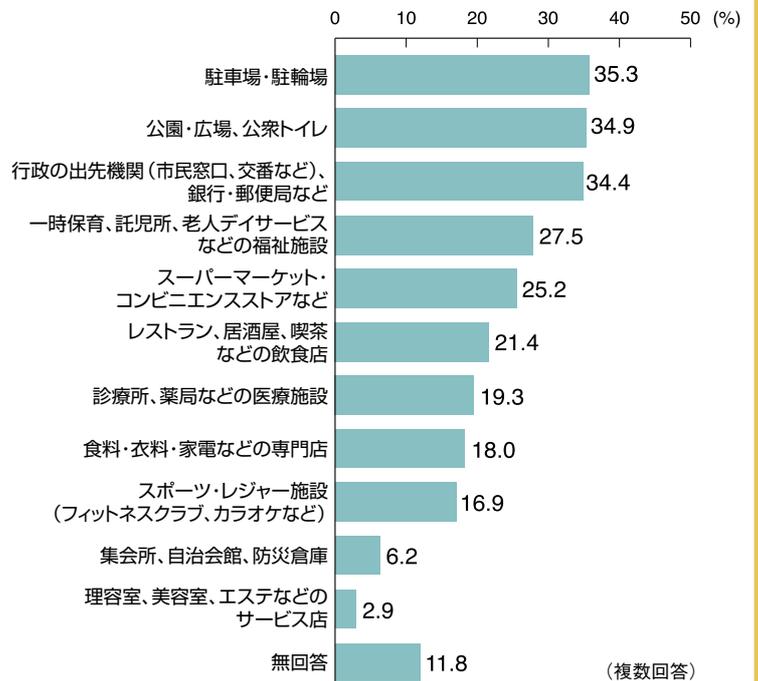


Q4

鉄道高架事業で高架下に  
有効スペースができますが、ここに  
どのような施設があったらいいと思いますか？

高架下には駐車場・駐輪場、公園・広場など多様な施設を

鉄道の高架化により富士見町付近からフジクラ付近まで高架下に約4.7ヘクタールの有効スペースが生まれます。ここにあったらいい施設として最も回答の多かったのが「駐車場・駐輪場」（35.3%）で、次いで「公園・広場、公衆トイレ」（34.9%）となっています。「行政の出先機関、銀行・郵便局など」は、高齢者の割合が大きくなっています。

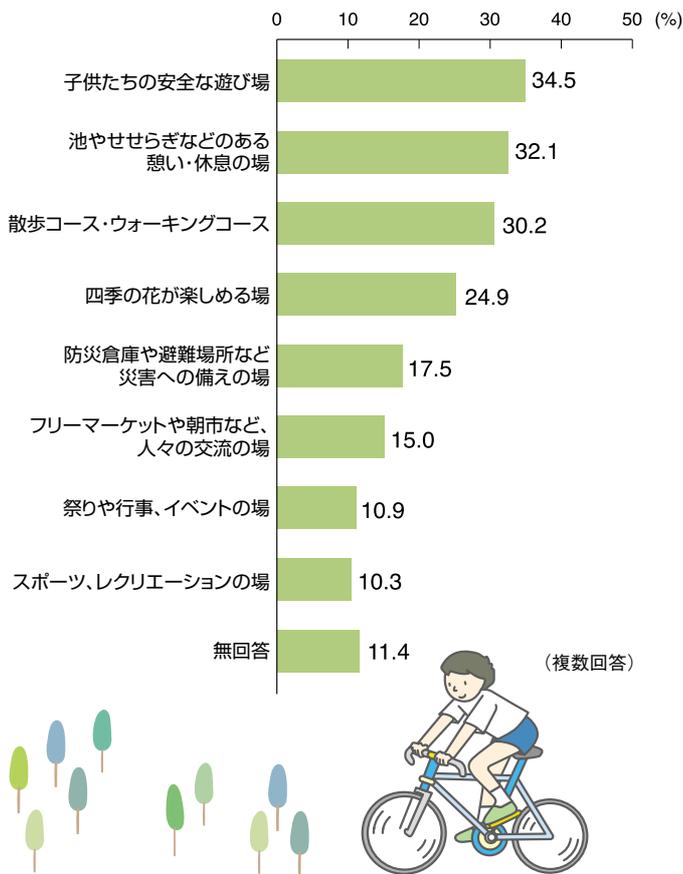


Q5

沼津駅周辺に整備する10カ所以上の公園や広場、広い歩道などの空間をどのように利用したいですか？

子供たちの安全な遊び場として利用したい。

沼津駅周辺には、合計約1.4ヘクタールの公園や広場を整備するほか、道路整備にあわせた広い歩道がつけられます。これらの空間の活かし方としては「子供たちの安全な遊び場」(34.5%)が最も多く、「池やせせらぎなどのある憩い・休息の場」(32.1%)、「散歩コース・ウォーキングコース」(30.2%)が続いています。



Q6

まちづくりに関してあなたが可能な参加方法は？

自治会やインターネットを通してまちづくりに参加したい。

市民の皆さんが今後可能と考える参加方法としては「自治会を通じて意見を出す」(38.4%)が最も多く、次いで「インターネットを使って市に意見を出す」(32.1%)、「書面で意見や提言などを市に出す」(28.1%)が続いています。「自治会を通じて」は、世代が上がるほど割合が高くなり、「インターネットを使って」は、10代から30代の若い世代の60%以上が支持しています。

